

昔むかし、あるところに、兄さんと妹がありました。兄さんの名前はハンスといい、妹はグレートといいました。やがて、お父さんもお母さんもなくなつて、ふたりきりになつてしまいました。ふたりは、あちこち旅たびをして、親切な人から食べ物や着る物をめぐんでもらつて暮くらしました。

ある晩ばんのこと、ハンスとグレートは、一軒けんの小さな家の前にやつて来ました。窓まどをたたくと、すぐに年とつたおかみさんが顔を出しました。ふたりが、

「どうか一晩泊とめてもらえませんか」とたのむと、おかみさんは、とびらを開けてくれました。けれども、おかみさんはいいました。

「わたしはよろこんで泊めてあげたいんだけどねえ。もしうちの人に気づかれたら、おまえたち、殺ころされてしまうよ。うちの人は、人間の肉にくが大好きで、ここに来た子どもはみんな殺して食べてしまうんだよ」

ところが、夜の道はもうすっかり暗くらくなつていて、ふたりは、これ以上先いじょうへは行けません。おかみさんは、ふたりを大きな樽たるの中にかくしてくれました。

しばらくすると、人食い男が帰つてくる足音がしました。ふたりは、樽の中でじつと静しずかにしていました。人食い男は、

「おい、晩ばんご飯の肉がないぞ」と、がみがみどなりました。

つぎの朝、人食い男は、どたんどたと足音をさせて出かけて行きました。おかみさんは、ふたりに朝ごはんを食べさせてから、いいました。

「泊めてやつたお札に、おまえたちにも少し働はたらいてもらうよ。そこにほうきが二本あるだろう。それを持つて二階にかいの部屋を掃除そうじしておくれ。部屋は十二あるけれど、そのうち十一だけを掃除しておくれ。でも、十二番目の部屋だけは、絶対ぜったいに開けてはいけないよ。わたしは、そのあいだにちよつと出かけてこよう。わたしが帰るまでに掃除が終わるよう、一生懸命いっしょうけんめいにやるんだよ」

おかみさんは出て行きました。子どもたちは、せっせと掃除して、まもなく終わりました。グレートは、十二番目の部屋に何があるか、とても知りしたくなりました。そこで、かぎ穴あなからちよつとのぞいてみました。そこには、すばらしいちいさな金の馬車ばしゃが置いてありました。馬車には金の鹿がつないでありました。グレートは大声でハンスをよびました。そして、ドアのかぎを開けてふたりで中に入つていきました。ふたりが、馬車に乗りこむと、たちまち金の鹿は馬車をひいて走りだしました。

馬車が走つていくと、向むこうから、人食い男とおかみさんが帰つて来るのが見えました。ハン

スは、

「ああ、グレート、どうしよう。見つかったら殺されちゃうよ」といいました。グレートはいいました。

「わたし、おばあちゃんから教わった呪文を知ってるわ」

赤ばら色のばらがさす、

わたしを見ても、見ないでね！

グレートが呪文を唱え^{とな}ると、たちまち、グレートはバラの花になりました。そして、ハンスはばらのとげに、鹿はばらのくきに、馬車は葉^はっぱになりました。

人食い男とおかみさんは、ばらの所までやって来ました。おかみさんが美しいばらをつもうとすると、とげがささって、指^{ゆび}から血^ちが出ました。おかみさんは腹^{はら}を立ててそのまま行ってしまうました。

ハンスとグレートは、また馬車を走らせました。すると、まもなく、パン焼き窯^{がま}の所にやって来ました。パン焼き窯^{はこ}には、パンがいつぱいつまっていた。パン焼き窯^{はこ}が良かったです。

わたしのパンを運んでよ。

わたしのパンを運んでよ。

グレートは、すばやく飛^とびおりて、パンをぜんぶパン焼き窯から取りだしました。ハンスはいそいでそれを馬車に運びこみました。それから、また、先へ進みました。

やがて、大きななしの木の所にやって来ました。木には、よく熟^{じゅく}した大きななしの実^みがいつぱいなっていました。なしの木が良かったです。

わたしのなしをゆすってよ。

わたしのなしをゆすってよ。

グレートはなしのみをぜんぶつみ、ハンスがそれを馬車に運びこみました。それから、また、先へ進みました。

つぎにふたりは、ぶどうの木の所にさしかかりました。木にはおいしそうなぶどうがいつぱいぶらさがっていました。ぶどうの木が良かったです。

わたしのぶどうをつんでよ。

わたしのぶどうをつんでよ。

グレートはぶどうをぜんぶつみ、ハンスがそれを馬車に運びました。

人食い男とおかみさんは、家に帰りつきました。すると、子どもたちがいません。十二番目の部屋からは金の鹿と金の馬車がなくなっていました。ふたりには、何が起ったのかすぐに分かりました。そこで、ふたりは、大急ぎで家から飛び出して、子どもたちの後^おを追いかけてました。

ハンスとグレーテが、馬車を走らせながらふり返ると、遠くに人食い男とおかみさんが追いかけてくるのが見えました。そのとき、ハンスとグレーテは、大きな池までやって来ました。池には船もないし、橋ありません。グレーテは、池で泳いでいるかもにむかっていいました。

かもさんたちよ、かもさんたち。

ぴったりくつついて泳いでおくれ。

わたしが向こうにわたれるように、橋になってちょうだいな。

すると、かもたちは、ぴったりくつついて泳ぎ、橋をつくってくれました。ハンスとグレーテは、馬車に乗ったまま向こう岸にわたることができました。

けれども、人食い男たちは、池のほとりまで追いついてきていいました。

かもさんたちよ、かもさんたち。

ぴったりくつついて泳いでおくれ。

わたしが向こうにわたれるように、橋になってちょうだいな。

かもたちは、すばやく、ぴったりくつついて泳ぎ、人食い男たちを向こう岸にわたしました・・・と思うでしょ。いいえ！ふたりが池のまん中の一番深い所まで来たとき、かもたちはさっと離れてべつべつに泳ぎだしました。そこで、人食い男とおかみさんは、おぼれて死んでしまいました。ハンスとグレーテは、家に帰りつくと、パンとなしとぶどうを、お腹いっぱい食べました。そして、それから、ほしいものがあると、いつも金の鹿が見つけてくれて、ふたりはいつまでもしあわせに暮らしましたとき。

村上郁再話

資料『もうひとつのいばら姫』板倉敏之・佐藤茂樹編訳／八千代出版